

小松均展

特別展

京都 大原に生きた画仙人
— 自然をまなざす

浜松市
秋野不矩
美術館

静岡新聞 SBS

6/14|土| 2025 7/27|日|

Hitoshi
KOMATSU

The Nature of Kyoto's Ohara
Through the Gaze of
the Artist-Hermit

浜松市秋野不矩美術館

休館日：月曜日 ※7/21(月)開館、7/22(火)休館

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料：一般1000円、大学生・専門学校生・高校生500円、中学生以下無料

※団体料金あり ※70歳以上の方は半額 ※障害者手帳等所持者及びその介護者1名は無料

主催：浜松市、(公財)浜松市文化振興財団 共催：静岡新聞社・静岡放送 協賛：遠鉄グループ、天竜浜名湖鉄道株式会社 企画協力：株式会社アートワン



山形県に生まれた小松均(1902-1989)は、画家を志して上京し川端画学校で学んだ後、1924年の国画創作協会展(国展)初入選をきっかけに京都に移り住み、土田麦僊に師事しました。明治維新以降、西洋美術、そして戦争に向かう世相の影響を受ける画壇の中で、小松均は新しい表現を求めて福田豊四郎、吉岡堅二とともに「山樹社」を結成し、休止期間を挟みながらも帝展や院展に出品し入選を重ねるなど、自身の芸術に向き合い生涯制作を続けます。作品からは自給自足の生活を営みながら京都大原の自然の中で磨かれた力強い表現、あるいは人物やいきものに向けられる慈しみを帯びたまなざしを感じられることでしょう。本展では、同じく京都を拠点に活躍した秋野不矩の作品もあわせて展示します。目指した表現に違いはありますが、秋野不矩もまた旧体制からの脱却を求めて結成された「創造美術」(現:創画会)の創立メンバーとして活躍し、インドの自然やその地に生きる人々から影響を受けて作品を制作しました。京都に住し新たな日本画を模索した二人の画家が自然やあらゆる生命に向ける真摯なまなざしを感じ取っていただけますと幸いです。

特別展 京都 大原に生きた画仙人

小松 均 展

Hitoshi KOMATSU
The Nature of Kyoto's Ohara
Through the Gaze of
The Artist-Hermit

—自然をまなざす



《牛図 さみだれ》昭和9(1934)年



《大原風景》昭和40(1965)年頃



《大原女》昭和51(1976)年頃



《林檎図》昭和23(1948)年



《赤富士図》昭和50年代



《魚紋図》昭和52(1977)年頃



秋野不矩《アフガニスタン風景》1972年
浜松市秋野不矩美術館蔵

※画像は秋野不矩《アフガニスタン風景》除くすべて、小松均 作、個人蔵

関連イベント

会場:当館展示室 申込:不要(要観覧券)

※詳細は美術館HPをご覧ください。

スペシャル ギャラリートーク

「画仙人」と呼ばれた小松均の作風や人となりについて詳しくご紹介します。
日時:6月14日(土) 10:30~ 講師:岡部信幸氏(山形美術館 副館長兼学芸課長)

当館学芸員による ギャラリートーク

本展覧会の見どころについてわかりやすく解説します。
日時:①6月29日(日) 14:00~ ②7月12日(土) 14:00~

浜松市秋野不矩美術館

〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130
TEL:053-922-0315 FAX:053-922-0316
<https://www.akinofuku-museum.jp>



【交通案内】

- 電車利用◎JR[掛川駅]より天竜浜名湖鉄道に乗り換え[天竜二俣駅]下車、徒歩約15分
- ◎JR[浜松駅]より遠州鉄道に乗り換え[西鹿島駅]下車、遠鉄バス[二俣・山東行]で[秋野不矩美術館入口](約7分)下車、徒歩約10分。または[西鹿島駅]よりタクシーで約7分
- 車利用◎新東名[浜松浜北IC]から約10分、[浜松SスマートIC]から約20分◎東名[袋井IC]から約30分、[浜松IC]から約35分、[浜松西IC]から約50分 無料駐車場50台

